

サービス管理責任者研修
地域生活（身体）分野
受講生各位

平成 27 年度神奈川県サービス管理責任者研修
地域生活（身体）分野 演習 事前課題について

平成 27 年 12 月 28 日
平成 27 年度神奈川県サービス管理責任者研修
地域生活（身体）分野
演習講師一同

受講生の皆様、日々の業務お疲れ様です。

さて平成 28 年 1 月 28・29 日に行われる演習に際し、短い時間の中で効率的に進めるために、事前課題をお渡しいたします。これは毎年行われているものです。

課題は 2 つあります。ご多忙とは存じますが、以下を熟読の上、取り組んでいただきますよう宜しくお願いいたします。

< 必要書類 >

揃っているかご確認ください。様式 2-1、2-2 は excel、他は word です）

演習 1 事例の概要

様式 1 一次アセスメント票

様式 2-1 サービス等利用計画書

様式 2-2 サービス等利用計画書（週間計画表）

様式 3 本人を知る為の地図

様式 4-1 ニーズ整理表

様式 4-2 ニーズ整理表（サンプル）

様式 5-1 個別支援計画書（初期）

1. 事前課題 その 1

あなたは自立訓練（機能訓練）を実施している B 市の通所型事業所「B 障害者支援センター」のサービス管理責任者・鈴木優子さんです。

鈴木さんが勤務している事業所に、指定特定相談支援事業者である A 市（B 市の隣り）の A 相談支援事業所・田中相談支援専門員から、A 市に住む神奈川太郎さんについて、利用相談の電話がありました。

鈴木さんが、神奈川さんや両親との面談を行うとともに、田中さんが開催したサービス担当者会議にも参加し協議した結果、神奈川さんの B 障害者支援センターの利用に至りました。

利用に際して「事例の概要」と、鈴木さんが作成した「一次アセスメント票」（様式 1）そして田中さんが作成した「サービス等利用計画書」（様式 2-1、2-2）を元に、「本人を知る為の地図」（様式 3）を記入し、次に「ニーズ整理表」（様式 4-1）を使って神奈川さんのニーズ整理を行ってください。

なおニーズ整理表の記入方法については、「ニーズ整理表（記入例）」（様式 4-2）を参照してください。

事前課題はここまでです。もし可能であれば、神奈川さんの「個別支援計画書」(様式5-1)を作成してみてください。「ニーズ整理表」をもとに、優先順位の高いニーズから記入します。

< 演習当日持参するもの >

- ・ 記入済みの様式3 (本人を知る為の地図): 提出必須。1部コピーしてください。
- ・ 記入済みの様式4-1 (ニーズ整理表): 提出必須。6部コピーしてきてください。
- ・ 記入済みの様式5 (個別支援計画書): もし作成した場合は、6部コピーしてきてください。

2. 事前課題 その2

神奈川県内で自立訓練(機能訓練)を実施している事業所は限られており、サービス管理責任者研修は貴重な情報交換の場でもあります。

各事業所のパンフレット・アセスメント様式・個別支援計画書や、事業報告書を11部(同一事業所から複数参加している場合は、その分減らして結構です)ご用意ください。いずれも無理のない範囲でお願いいたします。

なお、事前課題の未実施や当日持参忘れなどにより提出できなかった場合には、研修修了証をお出しすることはできませんので、十分にご注意ください。

【お問い合わせ】

(社福)横須賀基督教社会館 田浦障害者地域リハビリセンター 金子 真奈美
046-861-9792
taura-kaneko@yokosuka-ccc.jp

(社福)神奈川県総合リハビリテーション事業団 七沢更生ライトホーム 青木 一男
046-249-2401
koseilight@kanagawa-rehab.or.jp

研修生は全員で9名です。有意義な研修にしたいと思いますので、まずは事前に演習講師へメールをくださいね!(研修会場までの交通事情なども含めて!) 金子・青木どちらでもいいですよ!!

それでは1月28日 研修でお会いしましょう!

【演習 1 事例の概要】

氏 名：神奈川 太郎 氏（27 歳男性） / 障害名：脳性麻痺による四肢麻痺

身体障害者手帳 1 級 / 障害支援区分 5 / A 市で両親・姉と 4 人暮らし

<生活状況・環境等概略>

食 事：スプーンで自立。入浴：洗体は一部介助。浴槽への出入りは介助。

排 泄：大小とも洋式使用。介助が必要（便座への移乗、下衣の上げ下げと後始末）。

更 衣：上下とも一部介助。

移 動：自宅内は手足移動（いざり這い）。自宅外は近隣なら電動車いす使用で自立。遠距離は家族の運転する車で移動。隣町の B 事業所への通所は時間的な都合もあり、母の車で送迎。

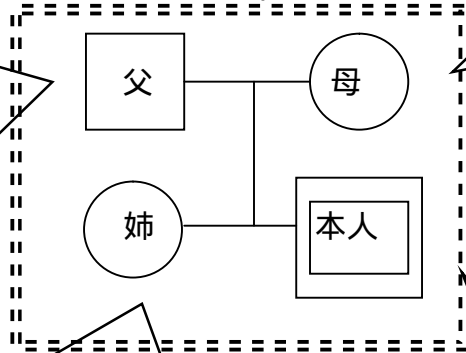
金銭管理：小遣い程度なら自分で可能。

趣 味：ロックバンド K のファン。母もファンであることから、月に 1 回母の介助で渋谷でのライブへ行く。最近はパソコンで絵を描くことに興味を持っている。

環 境：家は A 駅より徒歩 15 分。近隣は平坦な場所。住宅改造は終わっており玄関にはスロープ設置。居室は手足移動で生活できる環境。浴室は介助でシャワー浴をベースにした改造。洋式トイレも L 字バーが設置済み。

《ジェノグラム》

（家族関係は良好）



- ・ 59 歳。30 年会社に勤務。定年間近。普段は仕事で忙しいが、休みの日は一緒に車で買い物やドライブへ行くなど本人のことを気にかけている。
- ・ 一人暮らしについては「親はいつまでも居ない。試したらいい。」と話す。

- ・ 29 歳。会社員。もうすぐ結婚して都内で生活の予定。
- ・ 本人に対して協力的。
- ・ 本人の自立に対しては、「甘えん坊だから、本当にできるのか心配。」と話す。

- ・ 58 歳。専業主婦。主な介護者。
- ・ 本人の一人暮らしに対し、理解は示すが、「そんなに急がなくても今の生活を続けてはどうか？何か見えないものにもぎ取られていきそう。」と話す。

- ・ 特別支援学校高等部を卒業。卒業後はずっと A 市内の「エスカルゴ」（就労継続 B）に通っている。（週 5 日）
- ・ 「将来は一人暮らしをしたい。もっと自分でできることを増やしたい。働きたい。」と希望。
- ・ 「いつまでも親を頼ることはできないので、介助者を探さなくてはいけないと思うのだが、どうやって見つけばよいか？」との相談あり。

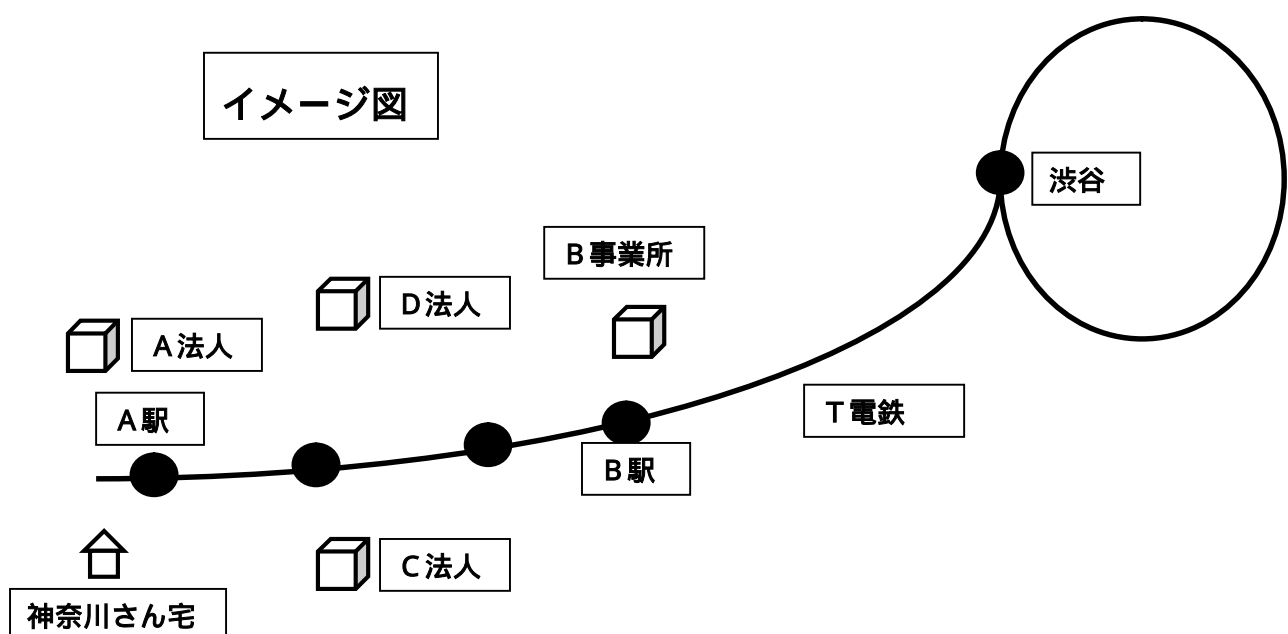
本人について（補足）

- ・ 就労については高等部在学中に実習を行ったが、結びつかなかった。
- ・ 他者との関わりやコミュニケーションなど適応面に問題は見られない。
- ・ 作業所は知的障害の方を対象としているので、話が合う仲間が居ない。近隣には他に通うところも無いので、しかたなく通っている。
- ・ 先日、高等部の同窓会でアパート生活を開始した同級生と会い、一人暮らしを考えるようになった。

【B 障害者支援センターと周辺の概要】

- ・ B 障害者支援センターは通所型の自立訓練（機能訓練）事業である。場所は神奈川太郎さんの住む A 市の隣り B 市にある。B 法人が経営。定員は 15 名。理学療法士（PT）1 名、作業療法士（OT）1 名が勤務。看護師 1 名。生活支援員は 3 名。プログラムは PT・OT による機能回復訓練や自主トレーニングを実施するほか、看護師による健康管理。社会生活力プログラムとして、失語症のコミュニケーション・買い物・調理・市街地移動・交通機関利用・地域の資源や制度を学ぶ・余暇活用などのプログラムを持ち、必要に応じて同じ目的の方とグループワークや、個別で行っている。
- ・ 利用者の過半数は 40～60 代の脳血管障害による片麻痺で、高次脳機能障害の失語症や記憶力障害を持つ方もいる。また脊髄損傷の方も数名。神奈川さんのような脳性まひの方は他に 2 名居り、同じ学校の先輩と後輩。
- ・ B 障害者支援センターは B 駅から徒歩 10 分。神奈川さん宅の最寄りの A 駅から T 電鉄で 3 つ目。東京・渋谷へ本で行けることから、ベッドタウンとして栄えている。
- ・ B 障害者支援センターは地域に根ざした活動を続けており、地域のお祭り会場になっている。登録ボランティアも多く、近隣の大学サークルと提携している。建物の一室を地域交流場所として開放し、趣味の絵画や写真を展示したり、ボランティアの打ち合わせを行ったりしている。
- ・ 元利用者の中には、ボランティアとの交流を続けながら B 市内のアパートで単身生活したり、GH で生活している。また当事者のグループを作り、「街のバリアフリーマップ」を作るなど積極的に活動している。
- ・ A 市と B 市には他に A・C・D の 3 法人がある。
A 法人は入所型生活介護施設（ショートステイ可能）・GH・相談支援事業所を持っている。今回の相談は、この A 相談支援事業所の田中さんから。
C 法人は就労移行支援事業所（通所）・就労継続 B（通所。今まで利用していた「エスカルゴ」）。
D 法人は入所型生活介護施設（ショートステイ可能）・就労継続 B（通所）・GH を持っている。
なお B 法人は、B 障害者支援センターのほか、通所型の生活介護事業も行っている。

イメージ図



利用者の状況

1 生活基盤に関する領域

項 目	チェック内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
経済環境	有り	家族が 管理	有り	小遣い(月 5000 円)は自分で管理出来ているが、障害基礎年金は家族が管理。	
住環境	無し	家族と 同居	有り	現在の住宅は改造済みだが、一人暮らしに向けた住居探し、生活動作及び電動車いす利用に対応する住宅の改修が必要。	

2 健康に関する領域

項 目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
服薬管理	有り	服薬無し	有り	現在は服薬ないが、処方されたら支援が必要。	
食事管理	無し	無し	有り	現在は家族が支援しているが、一人暮らしに向けて支援必要。	
病気への留意	有り	家族が管理	無し	家族が居ないときは誰かのチェックが必要。	
体 力	無し	無し	無し	今後は筋力低下、四肢拘縮等の予防が必要か？	

3 日常生活に関する領域

項 目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
寝返り	無し	無し	無し		
起き上がり	有り	全介助	有り	動作全般に介助を必要とする。	
衣服着脱 (上衣・ズボン等)	有り	一部介助	有り	上着の袖通し、下着は上げ下げとチャック・ボタンの介助を必要とする。	
整容行為	無し	無し	無し	車いす対応の洗面所であれば可能。	
食事行為	無し	無し	無し	スプーンであれば可能。	
排泄行為 (排尿) (排便)	有り	全介助	有り	排尿・便とも洋式便座への移乗とズボンパンツの上げ下げ、清拭介助。	
入浴行為	有り	一部介助	有り	洗髪は可能。洗体は背中・でん部・足先の介助要。浴槽への出入りに介助を要するため、家ではシャワー浴。	
ベッドへの移乗 (床・車いす等)	有り	全介助	有り	両脇を抱えて移乗介助する。	
屋内移動	無し	無し	無し	手足移動(いざり這い)。	
調理(後かたづけを含む)	有り	全介助	有り	母が行っている。調理は未経験で方法や手順を把握していない。	

洗 濯	有り	全介助	有り	母親が行っているため、動作は未経験。
掃 除	有り	全介助	有り	同上
整理・整頓	有り	全介助	有り	同上
ベッド メイキング	有り	全介助	有り	同上
書類の整理	有り	全介助	有り	ある程度はできるが、通常は母が行っている。
買い物	有り	一部介助	有り	店員などに依頼して買い物はできる。
衣類の補修	有り	全介助	有り	母が行っている。
育 児				子供はいない。

4 コミュニケーション・スキルに関する領域

項 目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
意思表示の 手 段	無し	無し	無し	言葉で意思表示できる。	
意思伝達の 程 度	無し	無し	無し	本人からの意思表示を他者が十分に聞き取ることができる。	
他 者 からの 意 思 伝 達 の 理 解	有り	一部介助	有り	日常生活上の内容であれば理解できる。本人が未経験な事項、契約事項などは支援が必要。	
電話の使用	無し	無し	無し	設定により携帯電話でメールは使用できる。	
FAX の使用	有り	全介助	有り	行った事がない。	
パソコン	有り	無し	有り	ネットの閲覧、メールのやり取りは可能。PCで絵を描くことに興味を持ち始めた。ワードやエクセルは「エスカルゴ」で少し行った。	
筆 記	有り	一部介助	有り	文字を書くことはできるが、書類への細かい枠内等への記載は難しい。	

5 社会生活技能に関する領域

項 目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
対人関係	無し	無し	無し	とても親和的。	
屋外活動 (近距離移動) (遠距離移動)	近距離：無し 遠距離：有り	EW/C EW/C	場面 によ り	(近) 電動車いすで移動ができる。 (遠) 一般交通機関の利用経験はあるが、一人で利用したことはない。	
金銭管理	有り	ほぼ介 助	有り	小遣い程度であればできる。通帳管理などは家族が行っている。	
危機管理 (戸締まり) (連絡)	有り	全介助	有り	戸締まりは支援が必要。一人暮らしした場合、絡手段の検討が必要。	

項 目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
レクリエーション等	無し	有り	有り		「エスカルゴ」(就労継続B)主催の行事に参加している。
趣 味	有り	送迎 介助	有り		ロックバンドKのファン。月に1回母の送迎で渋谷でのライブまで行く。一人で行きたい
旅 行	有り	全介助	有り		友人とKのライブへ行きたい。
当事者団体の活動	有り	無し	有り		一人暮らしの話を聞いたり、実際に体験することを希望している。
各種社会的活動	有り	有り	有り		「エスカルゴ」(就労継続B)で行われる活動に時折参加する程度。

項 目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
教 育	無し	特別支援 学校高等 部卒	有り	社会的体験や自立生活の話を聞いたり、実際に体験することを希望している。	
就 労	有り	就労継続 B	有り	高校時代に実習したが結びつかず。 将来は就労したいと希望。	

項 目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
家 族	有り	協力的	有り	一人暮らしには家族の理解が必要と考えている。	

本人 未定

家族の要望・希望する暮らし

姉：「（一人暮らしに対しては）甘えん坊だから無理じゃないか、心配」と話す。

- ・ 将来は一人暮らしをしたい。
- ・ もっと自分でできることを増やしたい。働きたい。
- ・ ずっと親を頼ることは出来ないので、介助者を探したい。

<p>関係職種からの情報</p> <p>A市内の「エスカルゴ」(就労継続B)より：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に5日休まず通ってきている。 ・軽作業を担当。PCエクセルで数量の入力、自社製品の色付けなど。 ・人間関係は良好。 ・一緒に作業をする仲間は知的障害の方が多く、本人とは話が合わない。 ・先日、高等部の同窓会でアパート生活を開始した同級生と会ってから、一人暮らしについての相談が増えてきた。 	<p>【家屋の見取り図】 <input type="checkbox"/> 持ち家 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>トイレ，浴室位置や形状，玄関，道路までのアクセスや段差等の記入</p> <p>省略</p> <p>一戸建てを想定。</p> <p>自宅内の改修は</p> <p>玄関スロープ設置。</p> <p>居室内は手足移動(いざり這い)で移動が出来る様に改造済み。</p> <p>トイレは洋式でL字バー設置済み。</p> <p>風呂は介助でシャワー浴をベースにした改造。</p>
<p>対応者所見（注目すべき点，気になる点を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期間両親のもとで生活され、社会的に未経験な面が多く、一人暮らしに向けた目的達成の為には周囲の適切な情報提供や支援のもと「体験の機会」を得ることが必要。その体験から得た情報・知識などを元に、目標達成する為に、何が必要か、どうしていけば良いかを、本人自身が具体的に考えられるよう支援を行う必要がある。 ・ 一人暮らしの相談は「エスカルゴ」(就労継続B)職員に行っており、精神的な支えは得られている。 ・ 本人に対して、家族は協力的であり関係性は良好。「一人暮らしを目指すのは素晴らしいが、母も本人も、離れられないのでは？」と、姉は心配している。 ・ A相談支援事業所の相談支援専門員・田中氏とも親和的な関係が築けている様子。 	

サービス等利用計画

利用者氏名(児童氏名)	神奈川 太郎	障害支援区分	区分5	相談支援事業者名	A相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	田中
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			
計画作成日	平成27年12月1日	モニタリング期間(開始年月)	平成28年1月～3月	利用者同意署名欄	
利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	本人) 将来は一人暮らしをしたい。もっと自分でできることを増やしたい。働きたい。 ずっと親を頼ることは出来ないので、介助者を探したい。 父) 親はいつまでもいないので、一人暮らしをしたいのなら試せばよい。 母) 一人暮らししたい気持ちはわかるが急がなくてもよい。				
総合的な援助の方針	ご本人の一人暮らしをしたいという希望を尊重し、一人暮らしに向けて、必要な準備と一緒に考えるとともに、サービス利用に関する支援を行う。				
長期目標	障害福祉サービスを活用した一人暮らしを目指す。				
短期目標	できることと、苦手なことを整理しながら、自分でできることを増やすとともに、生活経験を広げていく。				

優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための 本人の役割	評価 時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)	提供事業者名 (担当者名・電話)			
1	自分でできることを増やしたい。	自分でできることを見つける。	1年	自立訓練(機能訓練)23日	B 障害者支援センター	・機能訓練に取り組み、できることは自分で行う。	3カ月	
2	将来は一人暮らしをしたい。	将来的には本人に合った住む場所を探す。				・苦手なことはどうすればよいか一つずつ考える。	3カ月	
3	話が合う仲間がいない。	人間関係を広げる。	1年	自立訓練(機能訓練)23日	B 障害者支援センター	・センターの活動に参加する。	3カ月	
4	働きたい。	本人に合った働き方と働く場所を考える。	1年	自立訓練(機能訓練)23日 相談支援	B 障害者支援センター A 相談支援事業所	・生活支援員、相談支援専門員と相談したり、センターの活動に参加しながら、自分にあった働き方を決める。	3カ月	
5								
6								

サービス等利用計画・障害児支援利用計画〔週間計画表〕

利用者氏名(児童氏名)	神奈川 太郎	障害支援区分	区分 5	相談支援事業者名	A 相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0 円	計画作成担当者	田中
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画開始年月	平成28年1月1日
--------	-----------

	月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00								・ B 障害者支援センター（機能訓練） ・ 週末は時折、父親とドライブに行く
8:00	起床・更衣・洗面・朝食等							
10:00	B 障害者センター個別支援計画に基づく自立訓練（機能訓練）							
12:00	昼 食							
14:00	B 障害者センター個別支援計画に基づく自立訓練（機能訓練）							
16:00								週単位以外のサービス ・ 相談支援 A 相談支援事業所
18:00								
20:00	夕 食							
22:00	入浴・就寝準備							
	就 床							
0:00								
2:00								
4:00								

サービス提供
によって実現
する生活の
全体像

・ B 障害者支援センター（機能訓練）を主に利用しながら機能回復と社会リハ訓練を行うことで、社会参加の拡大が図れる。その結果、将来の生活設計を更に自己決定できるようになる。

ニーズ整理表

本人の希望や願い	現状 (本人・家族・環境の現状)	ストレングス (本人・家族・環境の強み)	支援の可能性 (支援者の見立て)
<ul style="list-style-type: none"> ● 箇条書きします。 ● ここで出された項目ひとつひとつに対し、 _____ の順番で整理していきます。 ● 本人・家族で内容が異なる場合、(本人)(家族)と分けて記入してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人・家族の希望や願いに関連する現在の状況を記入してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人・家族の希望や願いと現在の状態から関連するストレングスについて記入してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 左の三つの事柄を踏まえ、解決するために必要な内容を記入します。この内容が個別支援計画書の「具体的な到達目標」にそのまま書かれる意識してください。

100文字アセスメント

「私は・・・」で始めます。参考として・・・

・「私は病院や施設に入らずに自宅で介護者のサポートを受けながら生活していきたい。でもこのままだと夫の体調やお金の負担も心配……。だれか私を介助してくれる人がきてくれないかしら・・・(87字 身体障害 肢体不自由のある人)」

・「ぼくは入院して10年目。日常家事はうまくできないけれど退院後はお金を自由に使ったり、人を気にせず自分のペースで生活したいので、アパートでひとり暮らししたい。でも保証人もいないし……。それにどんなひとり暮らしになるのかなぁ？(108字 精神障害 統合失調症のある人)」

・「ぼくは今の家で暮らしながら、そのうち作業所でなくちゃんと働きたい。だけど話の理解も作業も遅いし、皆についていけずにちょっと不安もある。また体調不良の母親もいるし、何かとうるさい兄もいてどうしていいか困っているんだ。(109字 知的障害のある人)」

(引用：駒澤大学准教授 佐藤光正先生 相談支援従事者初任者研修)